



のっぽの手

認定 NPO 法人 ふくしま NPO ネットワークセンター通信 2014. 7月号

「のっぽの手」リニューアル!!

ふくしま NPO ネットワークセンターの機関紙「のっぽの手」をリニューアルしました。

ひとつでも多くの情報を皆さまにお伝えしたくて、これまでの 4 ページに 2 ページを加え、装丁も巻き閉じに一新しました。どうぞ、最終ページまでごゆっくりご覧ください。

◆Contents

●各事業所からの報告

6月よりネットワークセンターは新年度になりました。平成 25 年度の事業報告と 26 年度の事業方針等、各事業部門よりの報告です。

- 事業全体を振り返って
- 協働と中間支援ネットワーク
- ものづくり団体意見交換会
- 通常総会と講座開催のお知らせ



つなぐ・ひろげるニュースレター

機関紙「のっぽの手」は、私たちの活動のようすや課題への取り組みなどをお伝えするために、これまでスタッフの手によって 52 号発行されてきました。常に節約を心掛けているネットワークセンターは機関紙の作成を外注することなく内部で手づくりされ、ときには輪転機のインクの掠れた文字がどこか懐かしく、誇りに感じることもありました。

さて、歴史を綴ってきたのっぽの手が今号からリニューアルしました。会員の皆さんをはじめ、ネットワークセンターを支えていただいている皆さん、そして初めて機関紙を手に取っていただいた方に、より見やすく、きれいな紙面をとおして情報を提供するためです。NEW 「のっぽの手」をよろしくお願いします。また、皆さまからの情報のご提供をお待ちしています。

*ネットワークセンターではホームページについてもリニューアル、現在作成中です。

“協働”と“情報の見える化”を柱に

平成 26 年度の事業は『福島県が実施する復興へ向けた多様な主体との協働推進事業「NPO 法人等基礎的能力強化事業」』で、NPO 中間支援事業を次のとおりおこないます。

1.ふくしま地域活動団体サポートセンターの管理運営（NPO なんでも相談・協働推進の情報収集・発信など）

2.NPO 法人等活動基盤整備事業（NPO のマネジメント強化・活動分野別サポートなど）

3.協働推進プラットフォーム事業（協働推進コーディネーター派遣・ネットワーク・情報の受発信など）

今年度は協働推進プラットフォーム事業を大きな柱にとり組んでいきます。特徴として各地域に設置されている市民活動の中間支援センターとの連携を強化、講座の共催や情報の受発信を充実させていきます。また、NPO と行政との協働のほか、企業との協働を推進します。この背景には、震災後 3 年が過ぎて、これまでの支援や助成金等が減少傾向にある一方で、県内外の企業

が CSR（社会貢献）の視点から、地域の活動団体を応援したいという声を受けて、団体と企業のマッチングやコーディネートにとり組む事業です。また、今年度の講座開催は、同じテーマで初級編・中級編・実践編など、丁寧なプログラムを実施します。さらに、現在、機関紙とホームページの本格的リニューアルにより「情報の見える化」を実現していきます。

すでに、通称“サポセン”的ロゴの作成や、オリジナルマスコット“さぽしー”誕生を実現させるなど、スタッフのチームワークで良好なスタートをきりました。スタッフ一同精進してまいりますので、皆さまのご協力をよろしくお願いします。

ふくしま地域活動団体サポートセンター所長

ふくしま NPO ネットワークセンター常務理事

齋藤 美佐



オリジナルマスコット
"さぽしー"

“観光”と“まちづくりの一助に

東日本大震災から 3 年が過ぎ、ふくしま情報ステーションの利用者数は過去最高の 39,160 名を数えました。前年度比 11% 増となりました。利用者の増加は、昨年 6 月開催の「六魂祭」や NHK 大河ドラマ「八重の桜」による効果が大きかったと考えています。

今後の課題は、福島市観光課や福島市観光コンベンション、そして様々な観光関係者との密接な連携及び情報共有を図る効果的な機会を検討すべきと考えます。

4 月 1 日から「ふくしま花のまちフェスティバル 2014」や 3 月下旬からのふくしま DC「福が満開、福のしま」キャンペーンも本格的に展開され多くのイベントが開催されています。吾妻スカイラインも開通し様々な山開きが行われるなど福島市の観光も本格的な時期に入りました。

最近、スタンプラリーをきっかけにふくしま情報ステーションを利用するようになった方を多く見かけました。スタンプラリーは「まち歩き」人口を増やし、コミュニケーション創出と中心市街地活性化に大きな効果があることを実感しています。

また、パンフレットやネット検索での正しい情



おもてなしの心で

報提供、新しい情報提供に努めていますが、お伝えする情報の体験の積み重ねも重要であると考えます。多くの体験は、ご案内時の会話を生み、観光地やイベントの魅力をさまざまな視点からお伝えすることができるようになります。

平成 26 年度はプレ DC への取り組みの「おもてなし隊」の実行、まちの駅ネットワークふくしまをとおした統一感のある「おもてなし」や「情報共有」に努め、情報と笑顔の泉のような魅力あるステーションを作り上げたいと考えます。

今後も福島市の観光やまちづくりの一助となるよう、スタッフ一丸となって精進し、新しいふくしまの実現を目指していきます。

まちの駅 ふくしま情報ステーション所長

丹治 武志

指定管理制度導入！

平成25年度の福島市市民活動サポートセンター（ふくサポ）は、会議室・多目的ホール11,254名、問合せ・相談件数658件、講座（年間8講座）参加者210名、来館者14,523名であった。全体的に増加傾向にあり、来館者は昨年度に比べ2,052名増加した。これは県内でNPO設立を考える方が増加していることに比例しているのかもしれない。

この状況を受け、4月1日より指定管理制度が導入され、ふくサポはさらに利用者の立場にたつたサービスを心がけることが求められている。

そこで、スタッフのスキルアップによるサービスの向上や委託講座事業とは別に利用者の声により近づけた内容の講座を自主事業として開催したいと考えている。資金に関する相談をされる利用者は少なくないので、助成財団センター協力のもと、助成財団と活動団体とのマッチングに力を入れた講座の開催など、利用者との会話や取材によりスタッフが肌で感じたニーズに応えた企画をしていきたい。

また、貸しロッカーや自動販売機の設置など利用者目線を考えた上でサービス向上は現在、検討中である。その他、指定管理制度の導入により利用者の登録や利用申し込みなどをこれまでより迅速化できるようになり、ホームページを利用しての会議室の空き状況の確認もできるようになる予定である。

指定管理制度が導入されたばかりで、今後検討が必要な部分は多いが、枠にとらわれない発想でアンテナを高くし、利用者に寄り添ったふくサポを運営していきたいと考えている。

福島市市民活動サポートセンター

チーフ 内山 愛美



絆を結ぶ

昨年度に引き続き、東日本大震災・原発事故による避難住民の生活再建につなげるため、個人や仲間、グループ等での起業化やビジネス活動等の支援を目指した福島駅前通り錦ビル4階における交流サロン「チョコラボ」の運営と、今年度事業として新たに浪江町笹谷東部仮設住宅と飯舘村松川第一仮設住宅の2ヶ所での「出前（絆）講座」を開催した。

予算の都合で、チョコラボのスペースは約半分ほどに縮小したことから、婦人団体や大学生のグループによる大挙しての利用は激減したものの、少人数での会合や打合せ、オフィス代わりや待合わせ等の利用者が訪れた。チョコラボ事業としては、就活を目指す中高年の方々からの要望に応えて、初心者向けパソコン教室を2回、延べ18日間実施。その後、希望者同士による自主的なパソコン教室が毎週定期的に開催された。

また、今年度はカナダ、スペイン、中国、ベトナムといった海外からの外国人支援者等が頻繁に訪れ、当事業への参加・協力をはじめ、チョコラボ利用者間とも交流を深め合うなど、国際交流に

も一役かうことが出来た。

一方、浪江町と飯舘村仮設住宅での「出前（絆）講座」は、農業の六次化や介護・子育て支援、手づくり工芸品づくりをテーマに大学教授、NPO代表者、経営者らを講師に、それぞれ5回の講座と、両地区合同による視察研修講座（バス・ツア）を1回実施。受講者数は、1講座当たり平均12.8人、延べ141名であった。また、講座の中で話し合われた、住民の方たちが“やってみたい活動”としては、野菜作り・花づくりからお菓子作り・料理教室、子供向けイベント、地元の食材を使用した特産品づくりなど十数種類に及ぶ。最後の講座は社会実験として、最も希望が多かったお菓子づくり教室を開催、多くの親子連れやお年寄りが集まり、集会所はいつもにも増して賑やかで笑い声が絶えない楽しいひと時となった。今後も引き続き、チョコラボで得たネットワークを活かし、これら住民活動の実現に向け一緒に取り組んで行きたいと考える。

チョコラボ・ふるさと支援担当

深田 俊雄

事業全体を振り返って

理事長 星野 瑛二

昨年の総会でご承認いただいた2013年度の事業方針・事業計画は、大きく8項目から構成されました。全体としては概ね順調な展開ができたものと考えていますが、いくつかの反省点もあります。新しい活動期を迎えるに当たり事業を振り返ってみます。

- 1.新しい公共に係る地域活動団体の活動基盤支援事業および復興に向けたモデル事業の推進
⇒活動基盤支援事業は県から委託を受け、モデル事業は県の助成事業として、それぞれ精力的に取組み、成果を挙げることが出来たと思っています。



- 2.中間支援NPOとしての独自事業の展開
⇒認定NPOの特典を活かして2つの基金を設置し、公正・透明な運用ができるよう規定等を整備しました。また、福島銀行さんとの助成事業、福島信用金庫さんへの紹介事業、住友商事さんのインターンシップ事業、さらには地元業者やNPOと連携した寄付ギフト事業など、課題であった企業等との協働の輪も広がりました。残念ながらブックレット刊行は出来ませんでした。



- 3.市民活動サポートセンターを軸に据えた県北の市民活動団体の連携強化
⇒ふくサポは利用実績を上げつつ、4月からは指定管理者としての管理運営のスタートに漕ぎつけました。市民活動の事務局を担ったふくふくプロジェクト事務局は「チョコラボ」に移動して、市民活動フェスティバル等の実行を担いま

した。停滞気味のふくふくプロジェクト情報センター機能は、体制強化を図り新たな活動に備えつつあります。

4.情報ステーション機能の発展的展開

- ⇒ふくしまの情報発信基地としての存在感を高め、「まちの駅」全国大会の事務局を担い、地域のネットワークを拡げました。



5.会員参加・NPOネットワークづくりによる活動の強化

- ⇒機関誌等で情報発信に努めましたが、HPについては各事業者間での相乗効果を高めていく工夫が必要と感じています。新規会員の獲得も課題として残りました。

6.理事会のパワーアップと職員・理事の情報共有

- ⇒チーフ会議を開催するとともに職員の外部研修会への参加、個人情報保護やNPOに関する内部研修会を実施し、職員の意識向上に努めました。

7.マネジメント・サイクルを意識した活動のレベルアップ

- ⇒拡大役員会や理事会でその都度、事業別収支予算書による情報共有を図りました。また、三役会を定期開催し、意思決定の迅速化に努めました。

8.諸団体との情報交換・連携・協働の推進

- ⇒1、2、3の事業を通して、さらには復興支援に関わって諸団体との交流を深めました。

協働と中間支援ネットワーク

ふくしまNPOネットワークセンター

常務理事 牧田 実

NPO や地域活動の現場で「協働」という言葉が使われるようになって少なくない時間が流れた。都市化や高齢化を背景とする家族や地縁組織の弱体化による社会的サービスへの需要が増え続けている一方、従来これを充足してきた行政とりわけ市町村のサービス供給力は行財政改革の嵐に吹かれ低下し続けている。行政と市民との協働は、この接点に位置している。協働には、本来行政が担うべきサービスを市民に押しつけるという側面があることは否定できず、もっぱらこの点を強調して協働そのものを批判する論者も多い。曰く「行政の責任放棄」、曰く「行政の新自由主義的な縮小・再編」。しかし、協働には、市民的主体の成熟と市民セクターの力量の拡大というもうひとつの面がある。個人や家族では充足できない生活ニーズを、行政とともに、市民の立場と目線を活かしてサポートしあういわば相互扶助システムの現代版という側面である。市民がともに助け合い支え合うことで、社会が豊かになり、人生が豊かになる。NPO・市民活動団体はその組織的な表現であり、こうした団体間の連携と行政との協働をネットワーク化するいわば要の位置に（実際には黒衣の存在だが）中間支援組織がある。

ふくしま NPO ネットワークセンターも設立以来 10 余年の歩みのなかで少しずつ存在感を増してきたといえるのではないだろうか。福島県の委託によるふくしま地域活動団体サポートセンター（サポセン）の運営は 3 年目を迎える。今年度は、県内各地の中間支援組織のネットワーク化を進める一方、社会貢献意欲の高い企業と NPO とのマッチングにも取り組もうとしている。福島市市民活動サポートセンター（ふくサポ）は指定管理へと移行しての初年度にあたり、新しいステージを切り開くべく奮闘している。ふくしま NPO ネットワークセンターではなく、サポセンとふくサポが多くの県民・市民に知られ、頼りにされる存在になることをめざして、微力を尽くしたい。

“宮城×福島” ものづくり団体に関する意見交換会を行いました

ふくしま地域活動団体サポートセンター

小林 紀子

震災以降、岩手・宮城・福島の被災地では、仮設住宅に暮らす方たちをはじめとして地域の皆さんによるものづくり活動がさかんです。ものづくりの種類は多岐にわたり、それに関わる方たちの生きがいづくりやコミュニティづくり、そして心のケアへつながっています。

今回、先行事例として、被災 3 県でものづくりに取り組む多くの団体をつなぎ、みやぎ生協と協働で「手作り商品カタログ」を製作、管理運営を担当している NPO 法人応援のしっぽ代表の広部知森さんを福島市へお招きし、意見交換会を行いました。

この日、広部さんのほか、福島県内で活動している一般社団法人葛力創造舎代表理事の下枝浩徳さん、株式会社 IIE 代表の谷津拓郎さん、ふくしま NPO ネットワークセンターの佐藤和子副理事長、菅野真理事が参加しました。

広部さんからは、宮城の地域の特性をいかした大漁旗のバッグやエコたわしなどの商品の紹介がありました。また、葛尾村出身の下枝さんからは、葛布（くずふ）を使ったストールや川俣町の川俣シルクの紹介、会津坂下町在住の谷津さんは、大熊町などから会津に避難された子育て中の母さんたちなどが関わる会津木綿を使ったストール商品が紹介され、完成度の高さに感心しました。

また、ものづくりは、それを趣味として地域の人たちが集まる場合と、そこから事業化させ生業としていく場合があることや、支援する NPO 団体や企業はその両方へのサポートが必要であることがあらためて確認されました。

今回の意見交換をとおして、支援活動を行う NPO や企業は個々の「点」ではなく、横のつながりをつくりながら「面」でものづくり活動をサポートしていくことが大切であると感じました。私も今後、点と点のつなぎ手として活動を続け、福島の復興をめざしたいと思います。

2014年度通常総会のお知らせ

2014年度（第15回）の通常総会を下記の通り開催いたします。

通常総会の前には、下記のファシリテーション講座を開催いたしますので、是非ご参加ください。

●日 時：2014年7月19日（土）

15時30分より

●場 所：チェンバおおまち3階

福島市市民活動サポートセンター会議室

『体感☆チームワークビルディング講座』

皆さんに必要な組織運営の行動力や知恵を養う体験型学習です。講座をとおしてチームワークを見直し、組織力を高めましょう。

●時 間：13時30分から15時まで

●講 師：遠藤 智栄氏（地域社会デザイン・ラボ代表）

地域活動団体で活動されている方ならどなたでも参加可能です。お気軽にお問い合わせください。

講座と総会の終了後には交流会も予定しております。併せてご参加いただければ幸いです。

福島県より受託、運営している施設

◆ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043

福島市中町8-2 福島県自治会館7F

TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741

URL [http://www.f-npo.jp/sapesen/](http://www.f-npo.jp/saposen/)

E-mail sapesen@f-npo.jp

福島市より受託、運営している施設

◆福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041

福島市大町4-15 チェンバおおまち3F

TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560

URL <http://www.f-ssc.jp>

E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp

◆まちの駅 ふくしま情報ステーション

〒960-8053

福島市三河南町1-20 コラッセふくしま1F

TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027

URL <http://www.machi-fukushima.jp>

E-mail info@machi-fukushima.jp

自主事業及び助成事業として運営している施設

◆チョコラボ・ふくふくプロジェクト事務局

〒960-8031

福島市栄町10-3 キッチンガーデンビル3F

TEL 024-521-9311 FAX 024-521-9311

E-mail fpic@fukufuku-project.net

会員募集と寄付のお願い

ふくしまNPOネットワークセンターは、会員組織が活動の基盤になっています。みなさまの会費はもちろんのこと、さまざまな情報提供やボランティアなどに支えられています。当センターの会員になって、より良い市民社会をともに創っていきませんか。

●入会

正会員・年間1口 10,000円

準会員・年間1口 5,000円

賛助会員・非常利団体…1口以上

常利組織…5口以上

行政組織…5口以上

財団・社団その他公益法人…5口以上

●寄附

当法人は「認定NPO法人」です。寄付者の方の所得税、法人税の課税について、寄付控除の特例が認められた団体です。

※入会希望の方は、入会申込書にご記入のうえ、事務局まで郵送またはFAXにてお申込みください。詳しくは、ふくしまNPOネットワークセンターまでお問い合わせください。

編集後記

●5月決算、そして総会開催を控えバタバタしておりますが、新年度はリニューアルした「のっぽの手」同様、気持ち新たにがんばります！（根本）

●リニューアルした「のっぽの手」いかがですか。時々ヘソを曲げる輪転機の機嫌を伺いつつの印刷から解放されて嬉しいような寂しいような…（大山）

●4月から新しくお仕事させて頂いてます。福島に越してきて、出会うもの全てが新鮮に感じられます。初心を忘れず頑張りますので宜しくお願い致します。（古屋）

編集・発行

認定特定非営利活動法人

ふくしまNPOネットワークセンター

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル8F

TEL : 024-528-1211

FAX : 024-528-1218

E-mail : center@f-npo.jp

URL : <http://www.f-npo.jp/>